

令和6年度 調布市立上ノ原小学校 学校評価報告書（学校長 箱崎 高之）

学校の教育目標

◎よく考え 進んで学習する子ども ○思いやりをもち 仲良くする子ども ○健康で 明るく元気な子ども

目指す学校像(ビジョン) 例) 学校像, 教員像, 児童・生徒像

目指す学校像 【ごきげんな学校】

(1) 児童にとって 「よきこびのある毎日が送れる学校」

- 【日々】 ・学んで分かるよきこび ・友達と関わることのできるよきこび ・心を解放して体を動かすよきこび
- 【長い目で】 ・自分の成長が実感できるよきこび ・自分の存在が認められるよきこび ・自分の将来に希望がもてるよきこび

(2) 保護者, 地域にとって 「安心して任せられる私たちの学校」

- ・よく見える学校→教育活動の積極的な発信 ・安心できる学校→素早く, 丁寧で誠実な対応 ・私たちの学校→協力, 協働の取組 (来校機会確保, 学校 HP, すぐーの活用) (子どもの成長を願って共に悩み, 喜び) (コミュニティ・スクール, 学校を核とした地域づくり)

(3) 教職員にとって 「ごきげんな職場」

- ・風通しのよい明るい職場 ・やりたいことができる職場 ・成長できる職場 (まずは挨拶, コミュニケーションをしっかりと) (できない, やらない理由を作らずにチャレンジ) (学び, 成長する機会の確保 職に誇りと責任を)

調布市立学校における共通した領域 <短期的な経営目標>

	1 豊かな心(徳)	2 確かな学力(知)	3 健やかな体(体)
自己評価	(1) 具体的な取組	(1) 具体的な取組	(1) 具体的な取組
	①教科担任制や交換給食を通して子どもの良さを多面的・多角的に見取り, 自己肯定感・自己有用感を育む。	①週ごとの指導計画を作成, 提出し, 計画的な指導を行い, 基礎的・基本的な知識及び技能の確実な定着を図る。	①挨拶を核とした基本的な生活習慣の定着を図る。
	②集団への所属感を高め, 充実した学校生活を送るために行事を改善する。また, 道徳授業改善のためにローテーション授業を行う。	②主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善, 子どもを主語にした学習を推進する。	②栄養士による給食メモ, 養護教諭による保健指導を通して, 心身の健康の保持増進に関する意識を高める。
	③学校生活アンケートを毎月実施して児童や保護者の声に耳を傾け, 素早く丁寧で誠実な対応をして心の居場所づくりに努める。	③一人1台モバイル端末を効果的に活用し, 個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を図る。	③ねらいを明確にし, 運動量を確保した体育授業を行うとともに, 持久走週間・なわ跳び週間等の体育的活動を通して体力の向上を図る。
(2) 成果(数値目標に対して→結果)	(2) 成果(数値目標に対して→結果)	(2) 成果(数値目標に対して→結果)	
①市・魅力ある学校調査「学校が楽しい」55%以上→50%	①国・学力調査・平均正答率国語 70%以上→75%・算数 70%以上→70%	①保護者アンケート「お子さんはすすんで挨拶ができる」A 評価 30%以上→31%	
②市・魅力ある学校調査「みんなで何かをするのは楽しい」70%以上→66%	②市・魅力ある学校調査「授業に主体的に取り組んでいる」45%以上→39%	②体力調査「朝食を毎日食べる」90%以上→91% 「毎日8時間以上寝ている」65%以上→70%	
③保護者アンケート「子供たちが安心して生活できる」A 評価 55%以上→56%	③市・魅力ある学校調査「授業がよく分かる」50%以上→46%	③都・体力調査「体力合計点」東京都平均以上を達成した学年(男女別) 50%→50%	
学校関係者評価	・教科担任制, 交換給食をすることで, 担任だけではなく学年の先生全員が児童のことを理解でき, 声をかけることができるのは, とても安心につながる。 ・スポーツ大会が全学年開催となり, 一体感が生まれた。 ・児童の自己肯定感を育む取組が十分になされている。	・教科担任制, 個別最適な学び, 協働的な学び等, 試行錯誤しながらも様々な先進的な取組を進めている。さらに保護者の理解が深まるとうい。また, 児童に対する意識付けも大切にしてほしい。 ・モバイル端末はとても有効に使われている。	・挨拶は生活の基本であり, とても大事なことである。保護者, 地域と連携したより一層の取組を期待する。 ・給食は, 子どもたちの学校での楽しみの一つであり, 郷土料理や外国の料理などメニューが豊富でワクワクするのがよい。

学校の特色を生かした領域 <短期的な経営目標>

	4 保護者・地域との連携	5 美しい環境の学校づくり
自己評価	(1) 具体的な取組	(1) 具体的な取組
	①保護者の来校機会を毎月確保する。HP を年間 200 回更新する。	①靴箱の靴をそろえることや清掃の指導を継続して行う。
	②学校運営協議会で熟議を重ね, 地域とともにある学校づくりを進める。	②FF 暖房機撤去, 教室ロッカー, 壁, 掲示板の改修を計画的に行う。
	(2) 成果(数値目標に対して)	(2) 成果(数値目標に対して)
①保護者アンケート「家庭で学校の出来事が話題になる」A 評価 50%以上→54%	①靴箱の靴がそろっている学級, 清掃が行き届いた学級 60%以上→46%	
②保護者アンケート「地域・保護者と協力した教育活動」A 評価 50%以上→54%	②保護者アンケート「教育環境の整備に努めている」A 評価 40%以上→44%	
学校関係者評価	・HP が充実しており, 学校の様子が分かる。また, 保護者, 地域との十分な対話, 説明がなされており, 学校に対する保護者, 地域の理解も概ね順調であると感じる。 ・保護者の来校機会は多少増えたものの, いまだに先生と保護者間の関係性には距離があるように感じている。学校, 地域, 保護者が互いに手を取りあい, 子どもたちが楽しい学校生活を送れるよう, フラットでオープンな関係でありたい。	・教室, 廊下, 階段等, 床に塵や埃が落ちているのが気になる。限られた人数でいかに効率良く清掃活動をしていくか, 対応が求められる。 ・施設, 設備が古く, 校内は全体的に汚れている印象。定期的な掃除の必要性あり。 ・壁の塗り替え, トイレの修繕など, 快適に過ごせるよう考えられている。

人材育成・組織運営

自己評価	○授業力の向上 ・全学年 12 学級で研究授業を実施し, 授業力向上につなげた。・校内授業公開を 61 回実施することで学び合いの機会を確保できた。 ○校務分掌等の活性化 ・主幹教諭を核とした組織運営を推進した。・起案文書の流れを徹底し, 職の立場と役割を明確にし, 意識を向上させた。 ○服務規律の徹底 ・定期的な研修とサービスニュースレターを活用し, 教育公務員としての自覚と人権意識を高める取組を進めた。 ○ワーク・ライフバランスの推進 ・Teams を活用し業務を効率化させ, 1 か月の時間外勤務 45 時間以内の教員の割合を 87%とした。
学校関係者評価	・研究授業や校内授業公開など, 授業力向上に向け, 多くの教員がそれぞれ自らすすんで良く考え, 取り組んでいると感じる。また, それをバックアップする組織としての取組も十分である。ワーク・ライフバランスの充実等, 教員が安心して児童と向き合うことのできる環境づくりに, 引き続き積極的に取り組んでほしい。 ・「ごきげんな学校」という目標のもと, 多忙な中でも様々な取組をしておられ, それが学校全体の明るい雰囲気へと繋がっている。

中期的な経営目標の達成状況

1	自他の命を大切に, 人と人との良い関係を築く力の育成については, 授業や行事において児童同士の関わる場面を増やすように改善が進んでいる。
2	自ら課題を発見し, 解決していく力の育成については, 校内研究を通して児童の主体性を育むための授業改善を継続することが課題である。
3	心と体を鍛え, 前向きに行動する力の育成については, 体力テストの数値, 運動の日常化において改善が見られた。今後も育成のための取り組みを行う。
4	学校・家庭・地域が協働して子どもたちの豊かな成長を支えていく学校づくりについては, 学校運営協議会の熟議を通して, 課題について共有できてきた。
5	美しい環境の学校づくりについては, 教室背面掲示板の補修や 1 年生トイレの改修をすることができた。児童, 教職員の意識を高める必要がある。
人・組	授業力の向上・校務分掌の活性化については, 教科担任制や校務システムの活用, 校内研究を活性化させることができ, 改善が進んでいる。

次年度の重点課題

○挨拶を核とした基本的な生活習慣の定着 ○個別最適な学びと協働的な学びを一体的に充実させ, 主体的・対話的で深い学びを実現する授業改善 ○コミュニティ・スクールの取組